

## 松本大学教育実践改善賞 創設の趣旨

今日、国際化、情報化、少子高齢化が進み、社会が急激に変化する中で、社会のあらゆる分野や組織において、時代の進展に即し将来を見据えて、現状を如何に改善し問題を解決し得るかという力量が必要になっている。とりわけ、学校教育では、学校教育法によって義務づけられた学校評価に代表されるように、P D C Aサイクルに基づく実践の改善が重視されている。今後の学校教育の発展と持続可能な社会の実現のために、学校の教師には、現状の問題を改善する力量がこれまで以上に強く求められている。

また、松本大学は、平成 29 年度に教育学部が新設されたことにより、総合経営学部、人間健康学部、教育学部を有する総合大学として、地域社会からの期待が一層高まっている。これまで、松本大学は、教育および研究によって学生を育てるだけでなく、学部および学科の特色を生かしつつ、地域連携によって学生に現状の問題を考察し改善する力を養うことを重視してきた。そうした特色ある人材育成により、長野県をはじめ地域社会に貢献するとともに、広く社会に有為な人材を輩出してきた。松本大学が、今後さらに発展するためには、大学教育の基礎をなす学校教育の動向を捉え、課題解決力や改善力のある学校の教師の関心を松本大学との関係のもとに強めていくことが重要である。

こうしたことから、学校教育における教育実践または地域の教育振興に実績が顕著な教師を松本大学が表彰することには大きな意義がある。松本大学が、課題解決力や改善力のある教師との関係を強めることは、大学が行う地域貢献の一つとして、また、長野県全体の教育振興に果たす大学の役割として極めて重要である。

以上を踏まえ、松本大学が、長野県全体の学校教育の振興に関わることを目的として、「松本大学教育実践改善賞」を創設するものである。賞名に「松本大学」と冠するだけでなく、「改善」という言葉を加えるのは、他の教育関係の賞との差異化を図るとともに、上述した改善の重要性に焦点を当てることにより、賞の趣旨と特色を明確にするためである。本賞の創設は、「地域立大学」をスローガンとして掲げる松本大学が目指す地域貢献の趣旨に沿うだけでなく、長野県教育界に対する本学のアピールになり、将来的には、より良い人材の入学確保にも繋がるものである。

このような意義をもつ本賞の創設は、学校法人松商学園の原点である戊戌学会の設立 120 周年という節目に相応しく、今後における松本大学の一層の発展及び将来性に寄与するところが大きい。